

# 令和7年度第3回大船渡市学校支援活動運営委員会

日 時：令和8年3月9日（月）午後3時  
場 所：大船渡市役所 教育委員会会議室

## 次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

協議第1号 令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

協議第2号 令和8年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

4 そ の 他

5 閉 会



## 大船渡市学校支援活動運営委員会委員名簿

任期：令和7年6月20日～令和9年6月19日

役職	氏名	区分	所属等	任用
委員長	菊池 康幸	学校教育関係者	立根小学校校長	新任
副委員長	紀室 浩	学識経験者	元末崎小学校教諭	再任
委員	中村 明彦	学校教育関係者	第一中学校副校長	新任
委員	岡崎 充博	社会教育関係者	吉浜小学校 PTA	新任
委員	菅原 優子	家庭教育関係者	前海の星幼稚園園長	再任

**協議第1号 令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について**

令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第2項の規定に基づき、意見を求めます。

令和8年3月9日

大船渡市学校支援活動運営委員会  
委員長 菊池康幸

事業名	家庭教育学級		
事業目的	就学前教育・保育施設（こども園、保育園、幼稚園等）、保護者、地域住民、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要 (実施状況)	市内4園（大船渡、日頃市、明和保育園、末崎こども園）で開催した。延べ参加者236人。		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1園あたりの前年度比参加人数	
評価方法	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年度比同数以上 (令和6年度実績：57.3人)	
実績	98.6% (令和6年度実績：96.9%)	59.0人(103%)	
達成度	◎	◎	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での取組意欲。 「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた人の割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合
評価方法	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
実績	98.6% (R6:96.9%)	97.2% (R6:89.0%)	97.2% (R6:93.9%)
達成度	◎	◎	◎
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加：4園で236名が参加し、保護者世代（30～39歳）中心に親子のふれあいの場を提供することができた。</li> <li>成果：満足98.6%、理解97.2%、家庭実践意向97.2%で、設定指標を達成することができた。</li> <li>実践：自由記述で具体的な家庭での実践が確認され、行動変容を促す内容であった。</li> <li>来年度ニーズ：体験型・親子参加型の講座への要望が多く寄せられている。</li> </ul> <p>以上のことから、本年度の家庭教育学級は、学習効果、家庭での実践促進など、多方面で高い成果を上げたと捉えている。</p>		
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>親子体験型プログラムの強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の希望が最も高い「親子体験学習」（64.8%）を中心に据えた講座構成とする。</li> <li>親子運動、ラフターヨガ、アート体験など、体験型学習を重点的に検討する。</li> </ul> </li> <li>家庭での実践を促すフォローアップの導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>園と家庭の連携を強化し、家庭内の取り組みを自然に促せる仕組みづくりを行う。</li> </ul> </li> <li>参加者数のさらなる増加を図ること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き各園と協力・連携し、参観日等、園のプログラムに併せて実施するなど、家庭が参加しやすくなるよう設定に配慮する。</li> </ul> </li> </ol> <p>以上のことから、次年度は「親子体験型の学び」「家庭での実践促進」「参加のさらなる増加」を3本柱に、より効果的な家庭教育支援を展開していくこととしたい。</p>		

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満  
※ 目標値に対して

事業名	家庭教育学級（英語スクール）「英語体験教室」	
事業目的	就学前教育・保育施設（こども園、保育園、幼稚園等）、学校、保護者、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。 親子が共に基礎的な英語学習や異文化交流の体験を通じ、自己肯定感や自立心を高め、社会を生き抜く力の醸成を図る。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要（実施状況）	夏季から秋季にかけて、未就学児・小学校低学年及びその保護者を対象に、国際コミュニケーション能力の育成や国際理解の促進を図るとともに、楽しみながら英語を学ぶ異文化交流の機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	学習前後で見られる子どもの変化 「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりするようになった」と回答した保護者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	62.5% (R6:86.3%)	60.0% (R6:61.8%)
達成度	△	◎
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	96.0% (R6:92.8%)	
達成度	◎	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加: 2回とも定員未満の参加となったが、少人数での実施により、講師や参加者同士のコミュニケーションが活発になるなどの効果も見られた。</li> <li>成果: 満足度100%・学習意欲96%と、質・効果ともに高い事業成果が得られた。</li> <li>実践: 講師・プログラム・親子協働が有効に機能し、家庭での英語継続につながる基盤を築いた。</li> <li>来年度ニーズ: 申込増に向けた募集方法等の工夫を図る。</li> </ul> <p>以上のことから、本年度の英語スクールは、参加者の充実度、学習効果、家庭での学習継続などで高い成果を上げた一方で、募集方法等の工夫が求められる。</p>	
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>家庭で続く仕組み <ul style="list-style-type: none"> <li>行動変容の芽を伸ばすため、家庭でできる簡単フォローを導入する。</li> </ul> </li> <li>参加率向上策 <ul style="list-style-type: none"> <li>定員未達の改善として、申込方法の見直し・対象範囲の拡大を図る。</li> </ul> </li> </ol> <p>以上のことから、次年度については、「家庭での継続」×「参加率向上策」により効果的な英語スクールへ発展させていくこととしたい。</p>	

達成度 ◎: 100%以上      ○: 80%以上～100%未満      △: 50%以上～80%未満      ×: 50%未満  
※ 目標値に対して

事業名	青少年体験学習事業	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 (実施状況)	市内小中学生を対象に、学校や家庭等では得ることが難しい体験を通じ、自主性と未知への好奇心を育み、生きる力を身につけるきっかけづくりを目的にした講座を実施した。「こども科学実験教室」、「こども鑑識体験教室」を開催し、多様な体験学習の機会を提供した(参加人数46人)。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	「新しくやりたいことが見つかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりすることが楽しかった」と回答した参加者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	115.0% (R6:106.3%)	95.6% (R6:122.5%)
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の育成	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「自分から進んで取り組むことがまあまあできた」と回答した参加者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	97.8% (R6:100.0%)	
達成度	◎	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2講座で計46名(科学18名・鑑識28名)が参加し、小3～小4を中心に幅広い学年層の子どもたちへ体験機会を提供することができた。特に「鑑識体験」では中学生の関心が高い傾向が確認された。</li> <li>・満足度は「とてもよかった」「よかった」=100%という極めて高い結果であった。</li> <li>・学習意欲では「自分から進んで取り組めた/まあまあできた」=97.8%と高水準となり、創造性に関する指標(新しいことをやりたい・工夫が楽しかった等)も95.6%と目標を大幅に超える成果が得られた。</li> <li>・自由記述では、「もっと実験してみたい」「化学により興味を持った」「指紋をとる方法を知ることができた」など、具体的な行動・興味の広がりが見られており、学びの定着や次の行動につながる傾向が伺えた。</li> </ul> <p>以上のことから、本年度の青少年体験学習は、参加層の広がり、学習効果の高さ、子どもの興味の深化、行動変容の兆しなど、多方面で高い成果を上げたと捉えている。</p>	
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学びの定着を促すフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りといった子どもの興味を持続させる仕組みづくりの検討を深める必要がある。</li> </ul> </li> <li>2 幅広い学年の継続的な参加促進</li> </ol> <p>以上のことから、次年度以降は、①興味を家庭・学校でも継続するような仕組みづくり、②幅広い学年の継続的な参加促進といった部分を検討していきたい。</p>	

達成度 ◎: 100%以上 ○: 80%以上～100%未満 △: 50%以上～80%未満 ×: 50%未満  
※ 目標値に対して

事業名	ふるさと教育講座
事業目的	若者の郷土への誇りと愛着を醸成し、将来の地域を担う人材を育成するため、郷土の歴史、文化、自然及び産業などに関する講座を開設する。
事業目標	① 若者の郷土への誇りと愛着の醸成を図る。 ② 地域を担う人材を育成する。
事業概要 (実施状況)	市内の中学生を対象に、郷土の歴史、文化、自然、産業及びその他適切と思われるものの講話の実施。令和7年度は「大船渡市の自然」をテーマに講師を迎え、実施した。
評価項目①	若者の郷土への誇りと愛着の醸成
評価指標	「ふるさと教育講座を受講して大変良かった・良かった」「地元のことを深く知ることができた・知ることができた」と回答した生徒の割合
評価方法	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上
実績	98.2% (R6:98.6%)
達成度	◎
評価項目②	地域を担う人材育成
評価指標	「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げるができる」「講座で学んだ大船渡の良さをいろんな人に伝えてみたい」と回答した生徒の割合
評価方法	学習終了後のアンケート
目標値	50%以上
実績	55.2% (R6:52.0%)
達成度	◎
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加：3校で487人が参加し、中学生と教師が地域学習に取り組む機会を確保できた。</li> <li>・成果：満足度・理解度とも高く、地域理解を深める効果が確認できた。</li> <li>・実践：今年度の講座は大船渡の大地に関わる内容であり、中学校で取扱う授業との関連性も高かったことから、学校内での具体的な学習実践につなげることができた。</li> <li>・来年度ニーズ：地域見学や体験的・探究的学習への要望が多い。</li> </ul> <p>以上のことから、本年度は参加の広がり、学習効果、学校内での実践など、多方面で成果があったと捉えている。</p>
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「外から見た大船渡の魅力」を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大船渡市にゆかりのある市外出身の講師を招いたり等することで、外部から見た大船渡の魅力を中学生及び教師に知ってもらう。</li> </ul> </li> <li>2 学校との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でも使えるような資料作りを検討する。</li> <li>・継続学習につながる仕組みを作る。</li> </ul> </li> <li>3 参加拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年が参加しやすい構成（行事や授業との組合せ等）を工夫する。</li> </ul> </li> </ol> <p>以上のことから、次年度は外部講師等の検討、学校との連携強化、参加拡大を中心により実効性のあるふるさと教育を推進していくこととする。</p>

達成度

◎：100%以上    ○：80%以上～100%未満    △：50%以上～80%未満    ×：50%未満  
※ 目標値に対して

事業名		スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。					
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。					
事業概要 (実施状況)	① 市内各小・中学校11校に38人スクールガードを配置した。 (登下校引率型28人、通学路巡回型9人、スクールバス添乗型1人) ② 地域住民をスクールガードとして登録し、登下校時の安全監視を行った。					
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保					
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数			
指標取得先	年間実績		年間実績			
目標値	0件		0件			
実績	1件		2件			
達成度	×		×			
評価項目②	地域住民による参画					
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取組に対する認識の拡大	
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート	
目標値	39人	75%	75%	75%	75%	
実績	38人	90.6%	78.2%	94.1%	93.7%	
達成度	○	◎	◎	◎	◎	
成果	① 登下校の引率と通学路の巡回や、配置希望のあった学校に新たにスクールガードを配置することで、徒歩通学児童・生徒の交通事故の防止に務めた。 ② 事故の発生及び声かけ案件は、令和6年度は7件だったのに対して今年度は3件だった。児童・生徒の安全のために、引き続き地域による見守りが重要となる。 ③ 児童・生徒の日々の成長を見ることや、児童・生徒とコミュニケーション等を図ることにより、多くのスクールガードが生きがい・楽しみを感じている。 また、80%近くがスクールガードをすることで新たな知り合いが増える等、スクールガード活動により、地域住民の自己有用感を高まった。					
次年度の課題	① 登下校時にスピードを出す車や不審者等の出没による危険に加え、通学路に熊の出没が危惧されることから、児童・生徒はもとより、スクールガード自身の安全のためにも、今後とも登下校時の安全確保対策が必要である。 ② 次年度も活動を継続を希望する保護者の割合は92.3%に対し、スクールガード本人が継続を希望する割合は62.5%だった。事業継続のために、地域住民の協力を得ながら、人材の安定的確保が必要である。					

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満  
※ 目標値に対して

事業名	学校支援事業	
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。	
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。	
事業概要 (実施状況)	学校より要望のあった地域コーディネーターを13校に12人配置し、生涯学習課に1人配置した。また、地域ボランティアを14校に21人配置し、学校支援を実施した。 (図書ボランティア：14校19人、金管指導ボランティア：1校2人)	
評価項目	地域コーディネーターの人材確保	
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する	
指標取得先	年間実績	
目標値	15人	
実績	12人	
達成度	○	
評価項目	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成	
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する	研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合
指標取得先	参加者の割合	受講者アンケート
目標値	70%	80%
実績	42%	100%
達成度	×	◎
成果	<p>① 地域コーディネーターの全校配置には至らなかったが、希望のあった13校に配置し、地域住民の積極的な学校活動への参画を促した。</p> <p>② 図書支援活動地域ボランティア研修会を開催した。ボランティアの参加率は昨年度に比べ低下したが、3人の図書担当教諭が研修会に参加した（R6：1人）。ボランティアと教諭からは、普段の活動の内容や他校の様子などをより詳しく情報交換する機会となり、非常に高い満足度だった。</p>	
次年度の課題	<p>① 特徴的な取り組みをしている地域コーディネーターの事例を各コーディネーターに情報共有するなどし、取り組みの気付きに繋がれるよう工夫が必要である。</p> <p>② 図書支援活動地域ボランティア研修会について、参加者の満足度は高いことから、参加率を高めるために、時期の見直しや呼びかけを工夫するなどして、学校支援における、学校・地域の連携強化を図る。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満  
※ 目標値に対して

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要 (実施状況)	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校に対し、先進事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
実績	各小中学校年2回以上、学校運営協議会を開催した。
達成度	◎
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上
実績	昨年度同様12校が熟議を開催した。昨年度同様の件数であった。 ※ 今年度も「協議」については含めないこととした。
達成度	△
成果	① 各学校の事務局や地域コーディネーターが中心となり、各学校の特色ある活動を推進したり支援したりすることができた。 ② 学校や地域が抱える課題を明確にし、今後向かうべき方向性について確認するための熟議が実施された。
次年度の課題	① 熟議については、今後の方針について運営委員において議論できるテーマ設定を工夫していく必要がある。 ② 年度当初に熟議の設定について説明したり、熟議のテーマについても情報提供したりして、運営委員が熟議のテーマに対して事前準備できるように進めていくことが必要である。

協議第2号 令和8年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

令和8年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第1項の規定に基づき、意見を求めます。

令和8年3月9日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 菊池康幸

事業名	家庭教育学級		
事業目的	教育保育施設、保護者、地域住民、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要	市内保育園・こども園・幼稚園の保護者・職員等を対象に家庭教育学級を開催する。		
評価項目①	教育保育施設・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1園あたりの前年比参加人数	
指標取得先	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年比同数以上 (令和7年度実績：59.0人)	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での取組意欲。 「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた人の割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合
指標取得先	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上

事業名	家庭教育学級(英語スクール)「英語体験教室」		
事業目的	教育保育施設、保護者、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。		
事業概要	未就学児・小学校低学年及びその保護者を対象に、親子が共に基礎的な英語に親しみ、異文化に触れる体験を通じて、子どもたちの自己肯定感や自立心を育むとともに、社会を生き抜く力の基礎を養うことを目的とする。 また、次代を担う子どもたちの国際コミュニケーション能力の育成や、国際理解の促進に資するため実施するものである。		
評価項目①	創造力の向上		
評価指標	定員に対する参加率	学習前後で見られる子どもの変化 「新しくやりたいことがみつかった」「アイデアを考えたり、工夫したりするようになった」「自分でできることがふえた」と回答した保護者の割合	
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	50%以上	
評価項目②	自主性の向上		
評価指標	学習意欲 「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた・まあまあできた」と回答した保護者の割合		
指標取得先	学習終了後のアンケート		
目標値	80%以上		

事業名	<b>青少年体験学習</b>	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要	夏季から冬季にかけて、小・中学生を対象としたさまざまな分野における体験学習の機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化 「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりすることが楽しかった」と回答した参加者の割合
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた・まあまあできた」と回答した参加者の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
事業名	<b>ふるさと教育講座</b>	
事業目的	若者の郷土への誇りと愛着を醸成し、将来の地域を担う人材を育成するため、郷土の歴史、文化、自然及び産業などに関する講座を開設する。	
事業目標	① 若者の郷土への誇りと愛着の醸成を図る。 ② 地域を担う人材を育成する。	
事業概要	市内の中学生を対象に、郷土の歴史、文化、自然、産業及びその他適切と思われるものの講話の実施	
評価項目①	若者の郷土への誇りと愛着の醸成	
評価指標	「ふるさと教育講座を受講して大変良かった・良かった」、「地元のことを深く知ることができた・知ることができた」と回答した生徒の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
評価項目②	地域を担う人材育成	
評価指標	「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げるができる」「講座で学んだ大船渡の良さをいろんな人に伝えてみたい」と回答した生徒の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	50%以上	

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。				
事業概要	① 市内小・中学校の通学路にスクールガードを配置し、登下校時の安全を確保する。各校の状況に応じ、引率型、巡回型及びスクールバス添乗型により実施する。 ② 地域住民をスクールガードとして登録し、通学路の危険個所の巡回や、登下校時の安全監視を行う。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取り組みに対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	39人	75%	75%	80%	80%

事業名	学校支援事業				
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。				
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。				
事業概要	地域コーディネーターを配置し、地域ボランティアによる学校支援を実施する。図書支援活動地域ボランティア研修会を実施する。				
評価項目①	地域コーディネーターの人材確保及び情報共有する機会の提供				
評価指標	学校支援活動を推進する 地域コーディネーターを配置する				
指標取得先	年間実績				
目標値	15か所（14校、生涯学習課）				
評価項目②	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成				
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する		研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合		
指標取得先	参加者の割合		受講者アンケート		
目標値	70%		85%		

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校に対し、事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上